

寝たきり症例に対する腹臥位を利用した理学療法 ～知覚-行為循環に着目して～

医療法人稲祥会稲田病院リハビリテーション科
理学療法士 田川大輔

【はじめに】

今回、腹臥位を寝たきりの患者様に実施することで全身状態に良い影響が見られた。老年者が腹臥位を取る効果については、拘縮、誤嚥、排尿・排便、認知症、褥瘡などに対して改善効果があると述べられている。（並河正晃.,2002）

また、寝たきりの患者様でも他動的にでも動かしていくことは重要である。私たちは動くために知覚するが、知覚するためにはまた、動かなければならない。これを知覚-行為循環（あるいは知覚循環）という。と述べられている。（Gibson.1979/1986）

寝たきりの患者様に対する理学療法を腹臥位と知覚-行為循環に着目して実施していった。シングルケースでの経験ではあるが報告させていただきます。

【寝たきりの方を考えた場合】

寝たきりの方は身体を多動的に動かすづらい状態にある。環境（ベッドという自分を支えてくれている支持面やベッド周りの環境）を身体を能動的に動かすことによって知覚し、支持面を知覚することで身体を安心して支持面へと預けることが困難な状態にある。身体と支持面との関係で知覚情報に偏りがあり、身体を過剰に筋緊張を高めることで、固定することで安定させようとする。つまり、知覚と行為の循環がうまくサイクルできていない状態と私は考えています。

【症例情報】

年齢：80代後半

性別：女性

疾患名：症候性てんかん、低K血症、肺炎後、慢性心不全、貧血症

既往歴：心原性脳梗塞（右側頭葉梗塞）

現病歴：症候性てんかんにて入院。

【理学療法評価】

JCS II.20

BRST:上下肢Ⅰレベル

筋緊張：麻痺側低筋緊張

ROM:膝関節伸展：右-50°、左-40° 肩関節屈曲：右150° 左100°

線分二等分テスト:中心より5.7cm右へ偏位

HDS-R:0点

Bartal.Index:0点

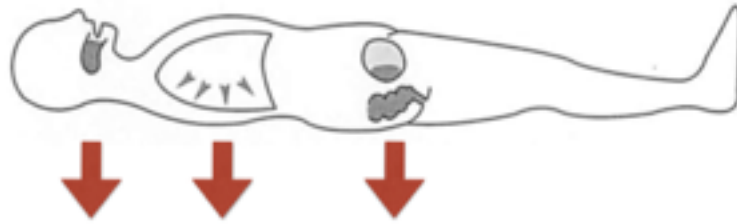
【介入方法】

寝たきりの方をうつ伏せへと姿勢変換する際には全身状態に注意して実施していききました。

他動もしくは、自動介助運動で寝がえり動作を誘導していきます。寝返り動作誘導の時には環境（支持面）と身体との関係において、動くことによる体性感覚と前庭迷路系、視覚情報の知覚変化が患者様に得られ易いように注意して誘導していききました。寝がえり動作誘導時の抵抗感や恐怖心が無い範囲で徐々に背臥位から側臥位、半腹臥位、そして腹臥位へと姿勢変換を練習していった。

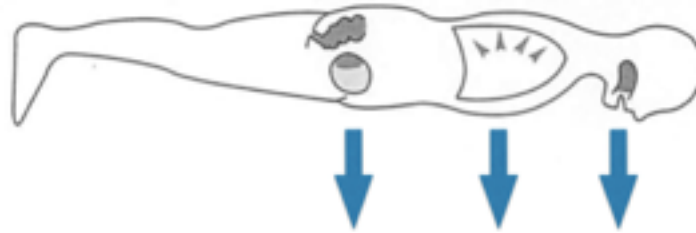
腹臥位では呼吸介助や身体を軽く揺する運動を行い筋緊張のコントロールや、自発的な動きの誘発を行っていった。背臥位と腹臥位の姿勢の特徴に関しては以下の文面、【背臥位と腹臥位の特徴】で記載させていただきます。

【背臥位と腹臥位の特徴】



図,改変：並河正晃,老年者ケアを科学する,p.45

従重力により痰、尿、便が背中側に貯留しやすい



図,改変：並河正晃,老年者ケアを科学する,p.45

従重力により痰、尿、便が腹部側に移動する

【結果】

○改善した点：

- ・ 覚醒改善し発語量も増大。治療前と比べて食事動作の介助量軽減し食事量が増大。
- ・ 線分二等分テストの結果：
中心より5.7cm右へ偏位(介入前) 、中心より約1.5cm右へ偏位(介入後)
- ・ 泥状便から有形便へと変化
- ・ JCS : 11.20(介入前) 1.2(介入後)

○改善しなかった点：

- ・ 基本動作の介助量軽減

【考察】

多くの場合、寝たきりの患者様が取れる姿勢といえば仰向け、もしくは横向きが多い。

仰向けでは、口腔内の吐物も、深部痰も、膀胱内残渣も出て行けず、肺炎、残尿と尿路感染症、そして便秘と糞づまりがいつも見られる。と述べられている。（並河正晃.,2002）

今回の寝たきり症例では、うつ伏せにより身体にかかる重力方向に変化を持たせる事で、便状態の変化、認知面の変化、食欲の増加に変化を得る事が出来たと考える。また、半側空間無視の改善については仰向けからうつ伏せを知覚循環した経験によるものと考えられる。

姿勢変化が前庭迷路系と体性感覚、視覚情報を刺激し麻痺側への注意改善に変化をもたらしたと考える。

しかし、基本動作の介助量の軽減がまだまだ必要な状態での退院となってしまった。より入院早期からうつ伏せを取り入れて全身状態の改善につなげていけるよう理学療法を進めていければ良かったと考えている。そのためにも、安全にうつ伏せに誘導できるよう、自身の理学療法技術の向上が必要であると感じた。

【まとめ】

腹臥位を取り出してから本症例の全身状態に変化が見られた。慢性期・維持期の高齢者に対するうつ伏せの有用性を実感することができた。また、寝たきりの患者様であっても動かす事の有効性を改めて実感した。

【文献】

- 1)並河正晃.老年者ケアを科学する.医学書院,2002,39-51.
- 2)GibsonJJ:The Ecological Approach to Visual Perception:Classic Edition.vol.20.Psychology Press,1979.

【倫理的配慮】

研究対象者へは研究内容の説明をし、対象者の自由意志で諾否が決められるよう配慮し承諾を得た。また、研究への参加によって、対象者の不利益や負担が生じないように配慮した。